

第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示 「建築の民族誌」と題し、社会の未来に関する議論の進化を投げかける

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、ヴェネチア（イタリア）で2018年5月26日から11月25日にかけて開催される「第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」に参加し、日本館を主催いたします。

キュレーターを務めるのは貝島桃代氏、展示タイトルは「建築の民族誌」。貝島氏に加え、ロラン・シュトルダーと井関悠の両氏から成るキュレーターチームを構成し、国内外の大学やデザインスタジオ、建築家から現代美術作家まで42組の作品を紹介します。本展の詳細につきましては、後頁をご高覧ください。

この機会にぜひ、貴媒体にてお取り上げいただけますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

記

■第16回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 概要

【会期】2018年5月26日（土）～11月25日（日）

【総合ディレクター】イヴォンヌ・ファレル&シエリー・マクナマラ（グラフトン・アーキテクト）

【総合テーマ】フリースペース

【公式ウェブサイト】<http://www.labiennale.org>

■日本館 概要

【展示タイトル】建築の民族誌

【会期】2018年5月26日～11月25日

【会場】ビエンナーレ会場 ジャルディーニ地区内

【コミッショナー】国際交流基金

【キュレーター】貝島桃代（アトリエ・ワン、筑波大学、スイス連邦工科大学チューリッ校）

ロラン・シュトルダー（スイス連邦工科大学チューリッ校建築理論教授、建築理論・建築史研究所所長）

井関悠（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【アシスタント・キュレーター】シモナ・フェラーリ、伊藤維、アンドレアス・カルパカチ（スイス連邦工科大学チューリッ校）

【景観アドバイザー】クリストフ・ジロ（スイス連邦工科大学チューリッ校景観建築教授）

【グラフィック】ネウシトラ

■内覧会・オープニングレセプション

【内覧会】2018年5月24日（木）・25日（金）

【オープニングレセプション】2018年5月24日（木）15時30分開始（現地時間）

【会場】日本館（内覧会・オープニングレセプションいずれも同会場にて開催）

※事前にプレス登録をお願いしております。ご参加のお申し込み方法につきましては、後頁をご参照ください。

以上

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部事業第2チーム（担当 大平・佐藤）

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

取材・広報用画像のお問い合わせ： 西谷枝里子

Tel: 090-2062-6963 E-mail: venezia@jpf.go.jp

当基金に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

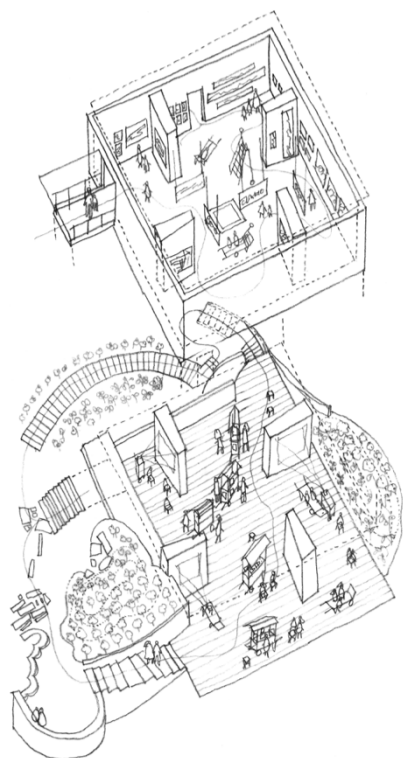
第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館

貝島桃代がキュレーターを務める第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示では、自身に加えロラン・シュトルダー、井関悠から成るキュレーターチームを構成、「**建築の民族誌**」と題し、国内外の大学やデザインスタジオ、建築家から現代美術作家まで42組の作品を紹介します。

本展は貝島がこれまで取り組んできたプロジェクトの延長線上に当たります。貝島は、フィールドワークを通じて街中にある建物を観察し、そこにある現代人の暮らしのあり方や都市の現実をドローイングを用いたガイドブックとしてまとめる取り組みを行ってきました。ユーモア溢れる視点で鋭く都市の現実を切り取ったこのプロジェクトは、使用者の視点で建築の本質に議論を投げかけ、国内外で大きな反響を呼びおこしました。またこれらがうまれてきた約20年は、情報化グローバル化が進み、社会が大きく変化した時代でもあります。

本展は、こうした背景に着目し、この手法に世界中で影響をうけたものや、同時代に世界各地に自然発生した作品、ドローイングを集め、「**建築の民族誌**」と題し総覧することで、**建築と暮らし、建築の役割をはじめとした、わたしたちの社会の未来に関する議論の進化を投げかけます。**

基本情報



2018. Feb. 01 MK

第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館

展示タイトル：建築の民族誌

コミッションナー/主催者：独立行政法人国際交流基金

キュレーター：貝島桃代 (アトリエ・ワン、筑波大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校)

ロラン・シュトルダー

(スイス連邦工科大学チューリッヒ校建築理論教授、建築理論・建築史研究所所長)

井関悠 (水戸芸術館現代美術センター学芸員)

アシスタント・キュレーター：シモナ・フェラーリ、伊藤維、アンドレアス・カ

ルパカクチ (スイス連邦工科大学チューリッヒ校)

景観アドバイザー：クリストフ・ジロ (スイス連邦工科大学チューリッヒ校景観建築教授)

グラフィック：ネウシトラ

会場：日本館 (ビエンナーレ会場のジャルディーニ地区内)

Padiglione Giappone, Giardini della Biennale, Castello 1260, 30122 Venezia

会期：2018年5月26日～11月25日

内覧会：2018年5月24日、25日

オープニングレセプション：2018年5月24日 3:30pm～

特別助成：公益財団法人石橋財団

協賛：YKK AP株式会社 窓研究所

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 建築学部

筑波大学芸術系

公益財団法人 大林財団

協力：大光電機株式会社

暮らしは建築を凌駕する。

このことは建築にとってどのような意味をもつのだろうか？ 建築設計の過程や結果にあらわれる無数の状況を、どうしたら効果的に描きうるのか？ ドローイングは単なる表記方法を超え、建築を記録し、議論し、評価するためのどんな道具になりうるのか？ ドローイングは人々の利用や要望、思いを探求し、現代のグローバル社会での断片化した暮らしの全体像をどのように描きうるのか？

第 16 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館で開催される「建築の民族誌」展は、大学の設計スタジオ、建築設計事務所あるいは美術作家の実践から生まれた、設計詳細図から空間と活動の連関図、ハイブリッドな都市環境図、自然災害後の農山漁村の大規模調査まで、過去 20 年間、世界各地の 42 作品を取り上げている。すべての作品がドローイングをめぐる新たなアプローチの探求を映し出している。それらは“of : について” for : のための“among : とともに”around : のまわり”といった英語の前置詞に代表されるような建築との関係性から生まれたドローイングであり、同時に社会についてのドローイングでもある。私たちはこれを「建築の民族誌」と呼ぼうと思う。

貝島桃代、ロラン・シュトルダー、井関悠

出展者

英語表記でのアルファベット順

- Oswald Adande
- 青井哲人、NPO 福島住まい・まちづくりネットワーク、福島アトラス制作チーム
- アーキエイド 牡鹿半島支援勉強会
- ASSEMBLE with Marie Jacotey
- Piotr Bujas, Łukasz Stanek, Alicja Gzowska, Aleksandra Kędziorek
- BUREAU A, Burø
- Emanuel Christ and Christoph Gantenbein / ETH Zurich
- Marie Combette, Thomas Batzenschlager, Clémence Pybaro
- Constructlab
- Crimson Architectural Historians with Hugo Corbett
- Drawing Architecture Studio
- Niklas Fanelsa, Marius Helten, Björn Martenson, Leonard Wertgen
- Adam Frampton, Jonathan D. Solomon, Clara Wong;
- Fernando García-Huidobro, Diego Torres, Nicolás Tugas
- Gede Kresna
- Florian Goldmann
- GSA Unit 14 / University of Johannesburg
- 慶応義塾大学 SFC / 石川初研究室
- Ismael Sheikh Hassan / KU Leuven
- Dirk E. Hebel, Melakeselam Moges, Zara Gray, with Something Fantastic
- Interboro Partners
- Andrew L. Jenner with John Braben
- Éva Le Roi
- MAP Office
- Titus Matiyane
- 宮下幸士
- Joseph Myerscough with Sarah Mills / Leeds Beckett University
- 瀝青会、中谷ゼミナール
- Jan Rothuizen, Martijn van Tol, Dirk-Jan Visser, Aart Jan van der Linden
- Rural Urban Framework and Sony Devabhaktuni / The University of Hong Kong
- 真田純子
- Dubravka Sekulić
- Studio Tom Emerson / ETH Zurich
- Do Ho Suh
- 須藤由希子
- Juan Carlos Tello
- トミトアーキテクチャ
- David Trottin, Jean-Christophe Masson, Franck Tallon
- Urban Risk Lab / MIT, Hiraoka Lab / Miyagi University, MISTI Japan / MIT, Reischauer Institute / Harvard University
- Lys Villalba
- Who Builds Your Architecture?
- 山口晃

キュレーターチームについて

貝島桃代 (1969年、東京都出身) 1991年、日本女子大学卒業。1992年、塚本由晴とアトリエ・ワン設立。1994年、東京工業大学大学院修士課程修了。1996年-1997年、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) 奨学生。2000年、東京工業大学大学院博士課程修了。2000年-2009年、筑波大学講師を経て、現在同大学の准教授を務める。2012年、the RIBA International Fellowshipに選出。2017年より、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) にて建築振る舞い学教授を務める。

その他、2003年及び2016年、ハーバード大学デザイン大学院客員教員。2005年-2007年、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) の客員教授。2011年-2012年にデンマーク王立芸術アカデミー、2014年-2015年にライス大学、2015年-2016年にデルフト工科大学。2017年にコロンビア大学の客員教授を歴任。

数々の建築設計プロジェクトに携わる一方、「メイド・イン・トーキョー」や「ペット・アーキテクチャー」のように、建築を通じた都市に関する調査を多数実施。

ロラン・シュトルダー (1970年、ローザンヌ出身) 1996年、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) 卒業。1996年-1997年、奨学金を得てスイス考古学建築研究所に在籍。1997年-2001年、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) 建築学科建築史理論助手 (2012年に博士号取得)。同年、カナダ・ケベックのラバル大学歴史学部にて建築史の助教に就任。2006年、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) 建築理論・建築史研究所の助手となり、2011年より同研究所の准教授を務める。2009年、マサチューセッツ工科大学の客員研究員。2016年より、スイス連邦工科大学チューリヒ校 (ETHZ) 建築理論・建築史研究所の所長を務めている。

井関悠 (1978年、長野県出身) 2003年、千葉大学卒業。その後、秋吉台国際芸術村企画課、横浜トリエンナーレ 2005 アシスタント・キュレーター、資生堂ギャラリー学芸員、ヨコハマトリエンナーレ 2014 コーディネーターを経て、2014年12月より水戸芸術館現代美術センター学芸員。

コミッショナーについて

第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示の主催者及び日本館のコミッショナーである「独立行政法人国際交流基金」は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。海外に23か国・24の拠点を持ち、「日本の友人をふやし、世界との絆をなくむ」をミッションに掲げ、世界の人々と日本の人々の間でお互いの理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

内覧会とオープングレセプションについて

一般公開に先駆け、関係者と報道関係者に向けて内覧会とオープングレセプションを行います。

ご出席いただける皆様は、専用フォーム (<https://goo.gl/forms/f3j5BJpisUKP2BmS2>) からお申し込みください。

フォームがご利用になれない方は、広報担当の西谷 (venezia@jpf.go.jp) までお申し込みください。(締切：2018年5月13日)

【プレス登録のお願い】

報道関係者の内覧会の参加には、ヴェネチア・ビエンナーレ公式websiteから事前のプレス登録が必要となります。

登録・詳細は右記の公式websiteをご覧ください。 <http://www.labiennale.org/en/press> (登録締切：現地時間 2018年5月13日)

内覧会：2018年5月24日、25日

オープングレセプション：2018年5月24日 3:30pm～ (現地時間)

会場：日本館 (ビエンナーレ会場のジャルディーニ地区内) Padiglione Giappone, Giardini della Biennale, Castello 1260, 30122 Venezia

カンファレンスの開催について

日本館の公式オープンに関連して、以下のとおり日本館にて、建築家と研究者によるカンファレンスを開催します。
事前の参加登録なしに聴講いただけますので、ぜひお越しください。

日時：2018年5月26日3:00pm～5:30pm

プログラム：

(パネル1) 議題：ドローイングとリサーチ [3:00pm～4:00pm]

参加者：Tom Emerson (英国・ロンドン)、David Trottin (フランス・パリ)、富永美保 & 伊藤孝仁 (神奈川県)

(パネル2) 議題：ドローイングとその関わり [4:30pm～5:30pm]

参加者：青井哲人 (神奈川県)、Florian Goldmann (ドイツ・ベルリン)、Michelle Provoost (オランダ・ロッテルダム)

(結び) Tom Avermaete (オランダ・デルフト)

モデレーター：貝島桃代 (東京都/スイス・チューリヒ)、ロラン・シュトルダー (スイス・チューリヒ)

※全編英語で行われます。

※参加無料、ただし別途ジャルディーニ会場への入場券が必要です。

■ 本事業に関するお問い合わせ

国際交流基金 文化事業部事業第2チーム (担当 大平・佐藤)

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

Tel : 03-5369-6063 Fax : 03-5369-6038 E-mail : venezia@jpf.go.jp

■ 取材・広報用画像のお問い合わせ

西谷枝里子

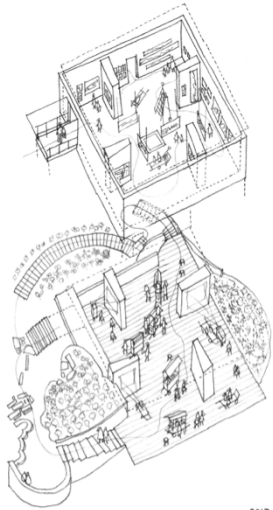
Tel : 090-2062-6963 E-mail: venezia@jpf.go.jp

広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の西谷 (venezia@jpf.go.jp) までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

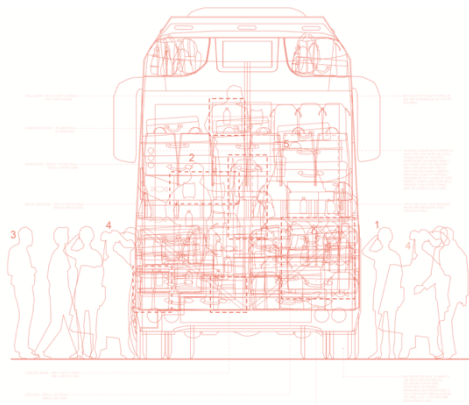
- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報および所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌又は、掲載記事を広報担当者までお送りください。



Momoyo Kajima, Exhibition Design Drawing, 2018 (© Momoyo Kajima)



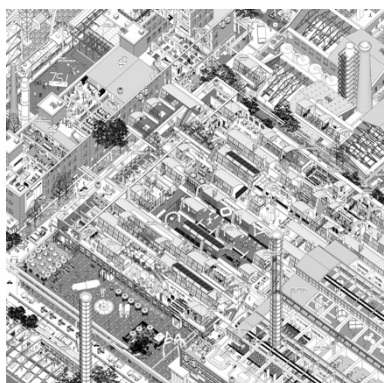
Yukiko Suto, W House – Entrance Side, 2010 (© Yukiko Suto, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo)



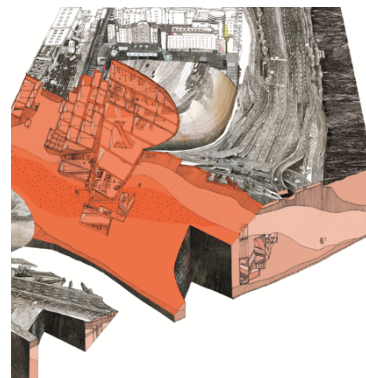
GSA Unit 14 / University of Johannesburg, Trojan Bus from: Rogue Economies: Revelations and Revolutions, vol. 1, 2017 (© GSA Unit 14 / University of Johannesburg)



Andrew L. Jenner with John Braben, a drawing from: The Building of the Queensland House: A Carpenter's Handbook and Owner's Manual, 2013 (© Andrew L. Jenner, John Braben)



Drawing Architecture Studio, a drawing from: A Little Bit of Beijing: 798, 2013 (© Drawing Architecture Studio)



Éva Le Roi, a drawing from: Coupel, 2008 (© Éva Le Roi)

■ 第16回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 全体概要

会期：2018年5月26日（土）～11月25日（日） 10時～18時 月曜休

入場料：25ユーロ

会場：ジアルディーニ地区（Giardini di Castello）、アルセナーレ地区（Arsenale）など

総合ディレクター：イヴォンヌ・ファレル&シェリー・マクナマラ（グラフトン・アーキテクト）

総合テーマ：フリースペース

公式ウェブサイト <http://www.labiennale.org>

■ ヴェネチア・ビエンナーレ（Biennale di Venezia）について

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。

1895年に最初の美術展が開かれて以来、120年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち建築展は、美術展と並び独自の位置を占めており、近年は美術展と交互に隔年開催されています。本建築展は、世界の現代建築の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界および建築界の注目を集めています。

— 建築展（日本館展示）における、近年の主な受賞者 —

第13回（2012年）ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展

賞：金獅子賞／最優秀パヴィリオン賞

受賞者：日本館 [コミッショナー：伊東豊雄]

参加作家：乾久美子（建築家）、藤本壮介（建築家）、平田晃久（建築家）、畠山直哉（写真家）]

第15回（2016年）ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展

賞：特別表彰

受賞者：日本館 [キュレーター：山名善之]

参加作家：菱川勢一／mnm（常山未央）／西田司＋中川エリカ／

成瀬・猪熊建築設計事務所（猪熊純、成瀬友梨）／

仲建築設計スタジオ（仲俊治、宇野悠里）／能作アーキテクト（能作文徳、能作淳平）／

miCo.（今村水紀、篠原勲）／レビ設計室（中川純）／

増田信吾＋大坪克亘／青木弘司建築設計事務所（青木弘司）／

403architecture [dajiba]（辻琢磨、橋本健史、彌田徹）／

BUS（伊藤暁、坂東幸輔、須磨一清）／ドットアーキテクト（家成俊勝、赤代武志、土井亘）]